

## 【キューバ医療情報 1 月】

1 月 2 日

キューバは COVID-19 のパンデミックでも、出生 1 0 0 0 人あたり 7. 6 の乳児死亡率を記録

保健省ウェブサイト

COVID-19 のパンデミックの下、2020 年には 103 人の妊婦と 17 人の産後の女性が COVID-19 の治療を受けたが、妊産婦死亡例は報告されなかった。2021 年には 6,947 人の妊婦と産後の女性が COVID-19 と診断され、93 人が関連する合併症で死亡した。これは 98.7% の生存率に相当する。

小児の感染者数について、陽性例は 2020 年に 1,308 人であったが、2021 年は 176,708 人に増加し、そのうち 11,692 人が 1 歳未満であった。合計 18 人が死亡した。予後を悪化させる他の疾患に関連しているが、99.9% の生存率を示している。

2021 年の終わりに保健省医療統計局の報告では、キューバで 99,093 人が出生したが、前年より 5,945 人少なく、1,000 人あたり 7.6 の乳児死亡率であった。

1 月 2 5 日

キューバのワクチンは、オミクロンに対して高い中和力価を示す

Cubadebate

ペドロコウリ熱帯医学研究所(IPK)でのウイルス中和臨床試験では、抗 COVID-19 ワクチンであるアブダラおよびソベラナは、SARS-CoV-2 ウイルスのオミクロン変異株に対し効果的に作用することが示された。

ソベラナ 02 とアブダラのワクチン接種により、オミクロンに対する抗体のセロコンバージョン（抗体陽性率）が 90% に認められた。また、ソベラナ 01 とアブダラで免役された場合は 100% であった。

1 月 2 5 日

小児の予防接種が終了し、キューバの子供は死亡していない

Granma

ペドロコウリ熱帯医学研究所(IPK) のソベラナ 02 臨床試験担当者によると、キューバでは 160 万人以上の 2 歳から 18 歳までの子供たちが、330 万回以上の COVID-19 の予防接種を受けている。予防接種キャンペーンが終了した後、小児の死亡例は報告されておらず、ワクチン接種により、小児の症例は 94.8% が回避されたであろうと述べた。

1 月 2 5 日

キューバは 2 歳未満の小児を対象にアブダラワクチンの臨床研究に取り組んでいる

Cubadebate

遺伝子工学・バイオテクノロジーセンター(CIGB)は SARS-CoV-2 ウイルスがもたらす脅威を考慮して、

2歳未満の小児を対象とした抗 COVID-19 ワクチンであるアブダラの臨床試験に取り組んでいる。

1月31日

キューバの肺炎球菌に対する小児用ワクチンは、準備できている

Granma

フィンレイ・ワクチン研究所では、肺炎球菌に対するキューバ製ワクチンである Quimio-Vio は、小児に使用する準備がほぼ整っている。

乳児に肺炎と細菌性髄膜炎を引き起こす病原体で、病原性の頻度の高い 7 種の血清型に対する結合型ワクチンで、注射剤である。研究所での小児用ワクチン開発の経験が、ソベラナワクチン開発を可能にした。